

風 からの (現場) フィールド

宮田守男

9月初旬、山梨県立リニア見学センターを訪れる。山梨県立リニア見学センターは、山梨リニア実験線の走行試験の開始に合わせて平成9年に開館した施設だ。

団体駐車場は、施設玄関前だが、5分ほど停車して、見学者を降ろし、別の駐車場に移動との案内を受ける。確かに、次から次へと、大型バスが到着する入気スポットだ。沿線住民だけでなく、関心がリニアに寄せられていると実感する。

リニア中央新幹線ホームページでは、企業の生産活動や世帯所得・消費活動に影響を与え、大きな経済活動効果をもたらすとして、交通政策審議会の分析では、利用者の所要時間短縮などの利便向上等を貨幣換算した、「便益」は、東京―

大阪開業時点において1年間あたり、7100億円との推計を示し、移動時間が短縮され、出張等が効率化し、出張コストが低下すること、世帯の消費や旅行関連財の消費が拡大することなどにより、8700億円増加

激変する鉄道交通輸送手段の現場を体験してみませんか

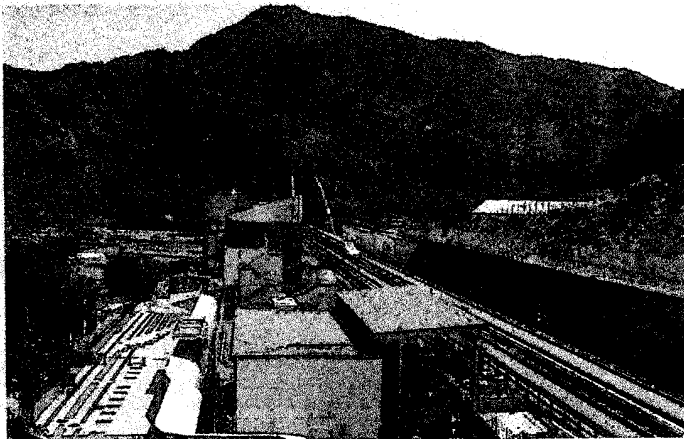
鉄道の歴史は、まだ150年に満たない。明治2年に、鉄道建設が決定、明治5年には、わが国初の鉄道が、新橋―横浜間20キロに開通、22年に新橋―神戸

間の東海道線が、24年に上野―青森間の東北線が開通、大正14年に環状線の山手線が運転開始され、昭和2年にわが国初の地下鉄も開業。38年に、東京から

新大阪までの東海道新幹線が開通、山陽・東北・上越・九州・北陸・山形新幹線など、旅行や移動には鉄道が無くてはならないものになっている。

するとの推計がされている。乗車には、申し込み抽選方式で、団体での申し込みは不可能だった。しかし、予約した時間に施設を訪れると、あと1分でリニアが通過しますとの案内。急ぎ足で見学場所

に。目の前を、あっという間に通過してしまう。初めての見学だったが、その速さに驚いてしまう。1時間の見学時間に4回、目の前を通過するリニアが見学できる。訪れて良かったと多くの参加者からの感想だった。



すでにリニア中央新幹線の吊り橋古川間工事の工事は、本年度内着工が決定、2017年

見学センター前を通過するリニア、誰もが開業したら乗車したいとの思いが募る

に東京から名古屋間が開業し、45年には大阪まで延びる予定だ。所要時間は、最速で6分、夢の超特急だ。近づいてきた時間革命、ビジネスや行動がどう変わっていくのだろう。当然、旅行スタイルは激変するのだろう。その時、大北地域が、生き生きとした地域であってほしいと願っている。
(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・森上白馬村)